

アレルギー性疾患治療剤

レスタミンコーワ錠

RESTAMIN KOWA TABLET

(塩酸ジフェンヒドรามミン製剤)

承認番号	(59AM)591
薬価収載	1987年10月
販売開始	1987年10月

貯法：遮光、室温保存
使用期限：外箱表示

禁忌(次の患者には投与しないこと)

- (1)緑内障の患者〔抗コリン作用により房水流出路が狭くなり眼圧が上昇し、緑内障を悪化させるおそれがある。〕
- (2)前立腺肥大等下部尿路に閉塞性疾患のある患者〔抗コリン作用による膀胱平滑筋の弛緩、膀胱括約筋の緊張により、症状を悪化させるおそれがある。〕

組成・性状

販売名	レスタミンコーワ錠
成分・含量	1錠中 塩酸ジフェンヒドรามミン 10mg
添加物	乳糖、ヒドロキシプロピルセルロース、セルロース、ステアリン酸Mg、炭酸Ca、タルク、白糖、アラビアゴム、ゼラチン、リン酸水素Na、酸化チタン、カルナウバロウ
色調・剤形	白色・糖衣錠
外形	直径約6.2mm、厚さ約3.4mm、重量約100mg

効能・効果

じん麻疹、皮膚疾患に伴う痒痒(湿疹・皮膚炎)、
春季カタルに伴う痒痒、枯草熱、
急性鼻炎、アレルギー性鼻炎、血管運動性鼻炎

用法・用量

通常、成人1回3～5錠(塩酸ジフェンヒドรามミンとして30～50mg)を1日2～3回経口投与する。
なお、年齢、症状により適宜増減する。

使用上の注意

1. 重要な基本的注意

眠気を催すことがあるので、本剤投与中の患者には自動車の運転等危険を伴う機械の操作には従事させないよう十分注意すること。

* 2. 相互作用

併用注意(併用に注意すること)

薬剤名等	臨床症状・措置方法
中枢神経抑制剤	相互に作用を増強することがあるので減量するなど慎重に投与する。
MAO阻害剤	中枢神経抑制作用は増強され、また抗コリン作用性による副作用は増強されることがあるので、減量するなど慎重に投与する。
抗コリン作用のある薬剤	併用により抗コリン作用が増強することがあるので、減量するなど慎重に投与する。
アルコール	飲酒により相互に作用を増強することがあるので、用量を調節するなど注意すること。

3. 副作用

	頻度不明
過敏症	発疹*
循環器	動悸
精神神経系	めまい、倦怠感、神経過敏、頭痛、眠気
消化器	口渇、悪心・嘔吐、下痢

*症状があらわれた場合には投与を中止すること。

4. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意すること。

**5. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

(1)妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には投与しないことが望ましい。〔抗ヒスタミン剤を投与された患者群で、奇形を有する児の出生率が高いことを疑わせる疫学調査の報告がある。〕

(2)授乳中の婦人には投与しないことが望ましいが、やむを得ず投与する場合には授乳を避けさせること。〔母乳を通して乳児の昏睡がみられたとの報告がある。〕

**6. 小児等への投与

低出生体重児・新生児には中枢神経系の副作用(興奮、痙攣等)が起こる危険性が高いので、投与しないことが望ましい。

薬効薬理

1. ヒスタミンに対する拮抗作用

ヒスタミンによるウサギ結膜の充血・浮腫、イヌ、ネコ、ウサギの血圧下降、ウサギの気管支痙攣、ウサギ、モルモット腸管の攣縮などに対して拮抗作用を示す¹⁾²⁾

2. 毛細血管透過性抑制作用

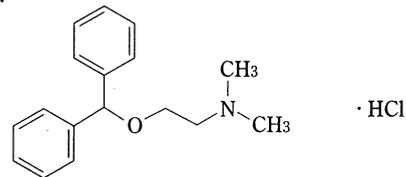
ラット炎症時の毛細血管透過性の抑制効果が認められている³⁾

有効成分に関する理化学的知見

一般名：塩酸ジフェンヒドรามミン(Diphenhydramine Hydrochloride)

化学名：*N*-(2-Benzhydryloxyethyl)-*N,N*-dimethylamine
monohydrochloride

構造式：



分子式：C₁₇H₂₁NO·HCl

分子量：291.82

融点：166～170℃

性状：白色の結晶又は結晶性の粉末で、においはなく、味は苦く、舌を麻痺する。メタノール又は酢酸(100)に極めて溶けやすく、水又はエタノール(95)に溶けやすく、無水酢酸にやや溶けにくく、ジエチルエーテルにほとんど溶けない。光によって徐々に変化する。

包装

500錠、2000錠

主要文献

1)寺井正士：医学研究，20. 465(1950)

2)Chen G. et al：J. Pharm. Exp. Ther., 92. 90(1948)〔参考〕

3)小倉保己：日薬理誌，54. 33(1958)

文献請求先

興和株式会社 医薬事業部 医薬情報部

〒103-8433 東京都中央区日本橋本町3-4-14